

---

# 雄次くんとサボテン

AOI

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雄次くんとサボテン

### 【Nコード】

N8182A

### 【作者名】

AOI

### 【あらすじ】

さえない大学生雄次くんと、ルームメイト(?)のサボテンのお話。

## サボテン、登場ス。

「あー。疲れたあ・・・」

思わずノビをしてため息。今日はネットワーク構築の実習が思いのほか延びた。

僕、菊地雄次（20）、明月大学情報学部2年。一応大学生。浪人しないで月大に入った事は菊地家七不思議の一つに数えられている。

言い返せないのがまた残念だけど。

「帰ってきたとたん、そんな顔してんじゃねえよ。」

カツ！

乾いた音の先には長いトゲ。

正面のテレビの上には、サボテン。

ああ・・・本日も容赦無い攻撃ですね・・・

「仕方ないだろ？今日は、実習があつたんだから・・・」  
「そんな暗い顔していると飯がマズくなるんだ。」

お前、飯食わないだろ。

サボテンなんだから。

・ん？何でサボテンが喋るかって？

僕も知らない。家の大学の傍のゴミ捨て場で拾ったんだけど、その時には既に喋ってたね。

まあ世界は広い訳だし、喋ったり、トゲを飛ばしたりするサボテンがいたって不思議じゃない。

まあ少しばかり、性格が悪いのが問題だけだね。

「疲れたならとっとと寝やがれ！」

何か今日は虫の居所が悪いらしい。何を言っても無駄だろう。寝るか。

**サボテン、登場ス。(後書き)**

小説投稿は、初めてです。

読みにくい文章ですが、しばらくお付き合いをお願いします。

## サボテン、対決ス。

明月大学もとうに夏休み期間。

サークルも夏活動がようやく終了した。

情報学部のメンバーは、故郷へ帰る奴、バイトに明け暮れる奴、部屋でネット漬けなど色んな奴がいる。

そして、俺にも素晴らしいプランがある！

「オイ、雄次。それ何だ？」

同居人が早速、重そうに担いできた紙袋を目ざとく見つける。

「お前も見るか？」

畳の上に中身を広げてみる。

『常夏の楽園！バリ一週間。』

『ハワイ5日間ポツキリ価格!!』

『時代はフィリピン！グルメツアー!!』

「おおっ！海外か。」

「この暑い日本を脱出してやろうと思ってね。お前はどっがいいと思うっ？」

「やっぱり、ハワイだろ。ホノルルだろ!!」

「じゃあこの『5日間ポツキリ価格ハワイ旅行』にするか。」

「賛成!!」

「よし、じゃあこれ決定。」

「常夏の島かあ。輝く太陽、青い海、白い砂、そしてイイ女・・・」  
完全に意識がホルホルビーチに飛んでいってる同居人に向かって俺  
は冷酷な一言を放った。

「ちなみに、お前は連れて行く気無いぞ。」

ピシッ

一瞬にして凍りつく室内。

「・・・エツ？」

「だーからーお前を連れてく気なんて無いの。俺一人で行くの。」

「何が、何に、何を、イヤ、何で？」

完全にシヨックで混乱しているらしい。

「だってさ。お前サボテンだろ？日本出国する時に検疫とか厄介だ  
ろうが。」

その辺、日本国はしっかりしているもんだ。

「・・・」

「・・・」

「・・・それより雄次。お前金は有るのか？」

「あるぞ。これまで家庭教師のバイト掛け持ちしてたからな。ハワ

「イ4泊位余裕さ。」

「どうやら妨害する策に出たらしい。」

「……しかし、今後の蓄えは大丈夫なのか？お袋さんのスネをかじるのは人としてみつともないぞ。」

「大丈夫さ。意外に堅実な方なんでね。自慢じゃないが貯金はかなりのもんだ。」

「……」

「……」

「別に海外に行かなくても色々楽しいことはあるぞ。」

「輝く太陽、青い海、白い砂そしてイイ女よりも？」  
「手に取るように焦っているのが分かる。」

「……」

「……」

「……ところでお前は学生だ。急に大学から呼び出されたりしないのか？」

「無い。」

「何故言い切れる？」

「教授、助教授、講師全員揃って日本脱出してるからだ！」

「……………」  
「どうやら、敗北に打ちひしがれているようだ。」

「明日申し込んでくるからな！」  
これまでサボテンに勝利した事のなかった人間が、遂にサボテンに勝利した歴史的瞬間であった。

俺は勝利の余韻に浸りながら早々に眠りについた。

くそして翌日く

「じゃあ申し込みに行ってくるからな。諦めるよ。」  
そう言つて部屋を出発しようとした時に、携帯が震えた。

『菊地雄次君。大学生協まで至急来て下さい。』

生協？

生協に着くといつもの白岩さんが迎えてくれた。

「雄次君助かるわ！夏休み中家庭教師の仕事沢山やってくれて！！」

はい？

「えっ？何のことですか？」

「昨日の深夜、電話くれたじゃない。『夏休みは働きたいんで、家庭教師のバイトあるだけ下さいって』。明月大つてやっぱり人気があるって依頼が多いから助かるのよね。」

そういえば、携帯がイヤに傷だらけだった気がする。

そう言い残すと白岩さんは去っていった。

そして俺の手元には夏の思い出の代わりに、大量のテキストが残されたのだった……。

## サボテン、対決ス。(後書き)

AOIです。

結局、こういうテストに落ち着きました。  
良ければ感想等お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8182a/>

---

雄次くんとサボテン

2010年10月12日23時47分発行